

小児科 後期臨床研修プログラム

1. 研修の基本方針

小児疾患は多岐に亘り、その範囲は内科全般と変わらない。加えて、新生児、乳幼児、学童、思春期と年齢によって疾患の様相は異なってくる。この広範囲な分野を、後期研修の3年間にすべて習得することは難しいが、多くの患児を受け持つことで、可能な限り広範囲な知識と技術を獲得してもらう。更に症例を深く掘り下げ、症例研究会や学会発表、できれば論文作成に携わり、疾患に対する理解を深めてもらう。

2. 研修の内容

当院は日本小児科学会の専門医研修施設に認定されており、将来小児科専門医となるために多くの疾患を経験してもらう。指導医は、新生児、小児循環器、小児内分泌、小児アレルギー、小児神経などの専門医が揃っており、それぞれの分野で専門的な指導を行っている。

研修1～2年目は主に、小児科病棟で年間約300以上の症例を受け持ち、代表的な小児疾患の診断と治療を習得する。その後NICUで数カ月間、一般新生児の診察、ハイリスク児の診断と治療を習得してもらう。さらに、産科の協力を得て出生前の妊婦管理なども学び、周産期医療の全体像を把握する。

小児の心臓の超音波診断法を習得し、出生した新生児全員の心エコーに関わり、先天性心疾患の診断がある程度できるようにする。

小児内分泌では、甲状腺疾患や糖尿病、低身長、肥満などの症例を受け持ち、負荷試験なども習得する。

小児アレルギーでは喘息や食物アレルギーの診断と治療。小児神経はけいれん性疾患や先天性の神経疾患などの診断に際して脳波の判読にも関わる。更に新生児のフォローを通じて発育発達について学ぶ。

研修3年目には、小児科専門医取得のため研修支援病院（北海道大学病院）で6か月間、当院では経験できない血液・悪性腫瘍の診断治療などを研修する。また、学会発表の機会を多く設けて発表してもらう。さらに論文作成にも挑戦してもらう。

3. 当科は下記の学会の研修制度に基づく認定施設です

・日本小児科学会

小児科専門医研修施設

4. 研修責任医師

周産期医療センター センター長

澤田 博行